

総合講義「教職実践研究Ⅰ」の実践

楠原 豊 [鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター]・塚元 宏雄 [鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター]

Actual Performance for " Research into Teaching Practice I "

KUSUHARA Yutaka・TSUKAMOTO Hiroo

キーワード：授業の実践的指導力、実践的教職科目、模擬授業

1 はじめに

総合講義「教職実践研究Ⅰ」は、実践的教職科目群の中の科目であり、本学部における実践的教職科目群の4年間の系統的な学びの中における2年次の「関わる」段階として位置付けられており、教師の中心業務である「学習指導」の基本について、「実践的」に学ぶことを目的としている。科目としての到達目標は、本時レベルの学習指導案を自分の力で書き、それに基づいて模擬授業を行うことである。

本稿は、開講後5年目を迎えた本科目のねらいや講義内容、さらには、本科目を通した学生の変容について報告したい。

過去3年間の受講者数は次の通りである。

	H22		H23		H24	
	小	中	小	中	小	中
国語	4	3				
社会	5		5	3	7	2
算数・数学	3		4	1	10	9
外国語活動・英語			2	6	2	1
図工・美術		1			1	
保健体育						1
受講生数	16		21		33	

また、本科目の学修目標は次の通りである。

学修目標（学生の達成目標）

(1) 【授業デザイン力】

児童生徒の学力向上を図る授業を目指して、授業前、授業中、授業後の各段階における基礎的・基本的な事項（教育課程や指導法の理解等）を身に付けるとともに、1時間の授業を構想し、指導案を作成することができる。

(2) 【自己改善力】

「学習指導」に関する力量形成を目指して、自分の課題を明らかにしながら、意図的に授業参観をしたり、指導案作成を行ったりし、その解決に進んで取り組むことができる。

(3) 【授業展開力、協働連携力】

学習指導の基礎的、基本的事項についての理解に基づきながら、模擬授業を行ったり、協力して授業研究やその省察を行ったりすることができる。



【模擬授業「算数」の授業場面】

2 「教職実践研究Ⅰ」の概要

本科目は、教職基礎研究（1年次）と教育実地研究（3年次）の間に位置付く科目である。「教職基礎研究（1年次）」では、多くの学生が学校、教師に関する多様な視点や課題意識をもつようになる。中でも、「授業の進め方」や「子どもへの接し方」、「学校、学級の環境づくり」などは顕著に見られるテーマである。この学習指導、児童生

徒理解, 人間関係づくり及び学校・学級経営といった内容は教員養成における中核的な部分であり, なおかつ学校現場で教鞭をとる現職教員にとっても学び続けなければならない重要なテーマである。本科目は, 1年次の課題意識の持続・発展と3年次の教育実習への関連等を重視する立場から「学習指導」を中心とした内容で構成されている。全15回の授業計画は以下の通りである。

回	内容・方法
1	○「学習指導案とその作成について」 【講義】 ・ オリエンテーション～ねらい, 自己課題や解決の見通しなど ・ 学習指導案の目的, 作成の考え方や手順 ・ 模擬授業とその指導案作成についての見通し
2	第1ステージ ○「授業の進め方, 指導法の工夫等」 【講義・演習】 ・ 授業の要件, 各過程での進め方, 学習形態 ・ 指導法の工夫と留意点など
3	○「きめ細やかな指導～発問や板書の基礎・基本」【講義・演習】 ・ 問題解決的な授業(模擬体験) ・ 学習指導と学習評価 ・ 発問・KR, 机間指導や板書・ノート指導等の実際
4	○「授業観察と授業設計」 【講義・演習】 ・ 授業観察の視点や方法について ・ 授業設計の実際～授業観察をもとにした指導案作成
5	第2ステージ ○「授業参観(公開研究会)に向けて」 【講義・演習】 ・ 参観授業(公開研究会授業)の発問案・板書案づくり ・ 研究公開の参加について(参観の視点と参加後の省察)
6	○「授業観察と授業研究」【演習】 ＜於：附属小・中学校＞ ・ 公開研究会授業の授業観察 ・ 教科分科会での授業研究参加
7	○「授業観察で学んだこと」 【演習・グループ協議】 ・ 参観の視点に基づく振り返り(個人→グループ協議) ・ 模擬授業の授業づくりに向けて(単元・授業内容の確認)

8	第1ステージ ○「学習指導案の検討・作成①」 【演習・グループ討議】 ・ 授業の目標と内容・方法の整合性 ・ 発問や板書, 教具資料等の準備
9	○「学習指導案の検討・作成②」 【演習・グループ討議】 学習指導案のプレゼンと学習指導案の練り直し ・ 各自の指導案の説明・紹介～相互批評・意見交換 ・ 指導案の修正, 発問計画・板書計画の作成, 教具資料等の準備
10	○「授業の具体的な準備」【演習】 ・ 教具資料等の準備 ・ 授業シミュレーション
11	○「模擬授業と授業研究」【演習】 ・ 模擬授業の実施と相互評価 ・ 模擬授業の授業研究
12	○「模擬授業と授業研究」【演習】 ・ 模擬授業の実施と相互評価 ・ 模擬授業の授業研究
13	第3ステージ ○「学習指導案作成と模擬授業の振り返り」 【協議；教科別】 ・ 各模擬授業についての検討(評価できる点と課題) ・ 授業設計・指導案作成で重要なこと及び今後の課題 ・ 指導案の修正
14	
15	○「授業づくりと今後の課題」 【演習；全体協議】 ・ 前時までの教科別の取組を通しての成果や課題の交換 ・ 学生の自己評価・授業評価 ・ 教職実践研究Ⅱ予告等

3 「教職実践研究Ⅰ」の実践

本科目の学修目標や指導計画に基づいた平成24年度の取組について以下に述べていきたい。

(1) 第1ステージの実際

第1ステージは, 学習指導案や授業構成要素である学習過程や学習活動, 学習形態・場, 評価, 発問, 机間指導や板書など学習指導に関する基礎的・基本的指導の理解が主なねらいである。また, 模擬的な授業を受けることで授業観察の視点や方法について考えさせたい。

第1回では, 「学習指導案とその作成について」をテーマに, 学習指導案の目的や作成の考え方や手順, 模擬授業までの見通しや自己課題

の把握等を行った。また、本講義に関する学生の実態把握と学生の今後の変容を確認するために学習指導に関する自己診断を行った。自己診断表の項目と学生の自己診断平均は下表の通りである。

(4段階評価：自己診断項目の詳細は別添資料参照)

[A：カリキュラムに関する理解]

1	教科の目標や指導内容	1.62
2	単元の目標や指導内容	1.50

[B：教材分析力及び授業デザイン力]

1	教材の分析	1.92
2	単元の指導計画	1.92
3	目標の設定	2.00
4	指導過程の構想	2.08
5	分かる授業の工夫	2.08
6	定着の工夫	2.23
7	特別支援教育の視点	1.88

[C：授業展開力及び授業評価力]

1	説明・発問	2.42
2	板書	2.08
3	K R	2.35
4	機器・教具等の活用	1.88
5	評価規準の設定・活用	2.04
6	授業の評価と改善	1.92

この中で、特に自己診断の低い項目はA：カリキュラムに関する理解の中の「教科の目標や指導内容」が1.62、「単元の目標や指導内容」が1.50となっている。受講している学生はほとんどが2年生で、実習前ということもあり、学習指導についての基礎的な知識をまだ十分身に付けていないことが伺える。逆に自己診断が高い項目はC「授業展開力」の「説明・発問」が2.42、C「授業評価力」の「KR」が2.35となっている。

同じ自己診断を第15回の最終講義でも行い、分析し、学生の変容等について考察したい。

また、自己診断後に本講義における自分の目標を記述させた。以下は学生の目標である。

- ・ 現段階では、全く授業計画について理解していないので、3年の教育実習で生かせ

るよう基本的なことを学びたい。授業を見通す力をつけ、自分が行いたい授業がどのようなものかという考えを広げられる力をつけたい。自分で授業を構想できるようになりたい。

- ・ 緊張して発表することが苦手なので、前に立って堂々と話せるようになりたい。
- ・ 自己診断を行い、どの力も身に付いていないことを改めて感じた。まずは模擬授業ができるようになるために、授業デザイン力を身に付けて学習指導案を書けるようになりたい。

第2回では、「授業の進め方、指導法の工夫」をテーマに導入・展開・終末等の授業の構想の立て方や指導方法、学習形態等について学習した。また、小学校国語科のDVD教材（注文の多い料理店）で実際の授業を観察しながら、授業の進め方や教師の働きかけ等を確認した。

第3回では、「きめ細やかな指導」をテーマに授業の構成要素や関連について理解を深めた。また、教師による模擬授業（小学校社会科）を通して、指導案と教材研究、板書・発問について学んだ。



第4回では、「授業観察と授業設計」をテーマに講義を実施した。特に今年度は大学教員による模擬授業を行い、授業観察の視点に気付かせる工夫を行った。以下がその内容である。

- ア ねらい
- (7) 授業観察の内容や方法について知り、視

点をもって授業を観察,あるいは参加をすることができる。

- (i) 模擬授業の授業参観を行い,意見交換を行う。さらに,指導案の作成の仕方について知り,今後の学習への見通しをもつことができる。

イ 講義の流れ

大学教員が授業者となり32名の学生を生徒役と教師役に分けて,模擬授業を行った。まず,模擬授業を行う前に,「授業参観の視点や方法」について各自で考えさせた。学生が,生徒役・教師役として事前に観てみたいと考えた視点は次のようなものがあつた。

- ・ 教師の発する言葉(発問や指示等) 3人
- ・ 板書 3人 ・ グループ指導 3人
- ・ 集中のさせ方 3人 ・ 教師の表情
- ・ 反応の返し方 ・ 机間指導の仕方
- ・ 教材 ・ ねらいとまとめの整合性

この中から,「導入場面」・「発問」・「板書」・「生徒の活動」について記録させるために先生役16人を4人ずつ4つのグループに分けて参観させた。

授業者(大学教員)は,中学校1年生数学「文字式」の「文字のきまり」の模擬授業を行った。先生役の学生の記録や状況は次のようなものであつた。

- 「導入場面」を観察した学生の記録
 - ・ 前回の振り返りを行うことで全員の状況をそろえていた。
 - ・ 学習課題を示した後に目標を示すことでこの時間にやるべきことが明確になっていた。
 - ・ いきなり課題を与えるのではなく,準備運動と同じで今まで習ったことを橋渡しの的に伝えながら進めていた。
- 「発問」を観察した学生の記録
 - ・ (短い言葉を記録してはいるが,教師の発問としてきちんと記録できてはいない。)
 - ・ (教師の行為そのものを記録している。)

- 「板書」を観察した学生の記録
 - ・ 後からノートを見てもわかるような板書になっていた。
 - ・ 色使いがシンプルでわかりやすい。
 - ・ 生徒の反応をそのまま書くのではなく簡潔に書いてあつた。
- 「生徒の活動」を観察した学生の記録
 - ・ グループで意見交換させる前に個人で考える時間を確保する。
 - ・ 子どもたちに「なるほど」などと声をかけながら回っていた。
 - ・ ペアで意見交換させたことで自信をもって手をあげることができていた。

- 学生が記載していた内容からの考察
 - ・ 導入場面においては,前時の様子を振り返りながらわかりやすく説明していくことの大切さを感じていた。
 - ・ 授業者の発問を捉えることが難しく,教師の指示や反応のみを短く書いている。「発問」を授業の流れの中で発問として記録することは難しいように感じていた。
 - ・ 生徒役の発した言葉を教師がどのような記載をしていくかについては,そのまま書くのではなく,全体にわかりやすい言葉で書くことに気付いていた。
 - ・ 個人への言葉かけを行うことで発表につなげようとする教師の意図を捉えていた。
- 模擬授業が終わった後の意見交換で,生徒役の学生から出された意見
 - ・ 目標と課題が分けてあつたので,この時間で学習することがわかりやすかつた。
 - ・ 興味をもてるような学習課題になっていた。
 - ・ グループでの意見交換があつたので他人のいろいろな考えを聞いてよかつた。
 - ・ 先生がまわってきたときの助言をもとに自分の考えを深めることができた。

このように、生徒役をした後に意見交換することで、教師の手立てが生徒役の意識においてどのように作用しているかを共通理解することができていた。この模擬授業を受けた学生からは次のような意見が出された。

- ・ 導入でいかに生徒を引きつけるか、ポイントをより分かりやすく伝えるかが教師の力のみせどころだと思う。
- ・ 教師がどんな準備をして授業にのぞんでいるのかを指導案等を通して知ることができてよかった。
- ・ 教師は細かいことに気を配って授業をしているということに正直驚いた。指導案どおりに授業が進んでいてすごいと思った。
- ・ 教師側の立場でみると生徒時代に見えなかったことがたくさんみえてきた。
- ・ たくさんの指導技術に裏付けされた部分も必要であると感じた。

(2) 第2ステージの実際

第2ステージでは、附属学校での授業参観を通して、範例として学びながら自分で実際に学習指導案を作成することになる。

学生は、附属学校の授業参加において、事前に次のような観察の視点をあげていた。

【教師に関すること】

- ・ 授業の進め方
- ・ 発問・板書のタイミング
- ・ 資料活用時の板書の仕方
- ・ 教材の工夫
- ・ 生徒の反応に対する教師のKR
- ・ パフォーマンス課題の意味 等

【子どもに関すること】

- ・ 話し合い活動の進め方
- ・ 教師の発問についての反応
- ・ 表情
- ・ ノートのとり方 等

学生は、発問や板書、教材教具など授業における具体的な指導法について着目している様子が伺える。この時点では、単元の構成や学習内

容に着目している学生はまだ少ない。

また、授業参観だけでなく、その後の授業研究にも参加させた。参加した教員同士の質疑や意見交換などのやりとりを通して、学生は、学習指導要領を読むことの大切さ、児童・生徒の実態に応じた学習指導案を細かく作成することの大切さなど、教材研究の大切さ



【グループ協議】

に気付いていたようである。

グループ活動では、それぞれの授業参観で学んだことを意見交換させ、次に「今後の指導案作成、模擬授業において重視したいこと」を協議させた。

学生からは次のような意見が出された。

- ・ 学習課題の位置付け
- ・ 教材の選定
- ・ 資料の提示・活用
- ・ 児童生徒の理解度の把握
- ・ 生徒が興味をもつ導入の仕方
- ・ 教材研究を十分行い、子どもの反応予想の幅を広げること
- ・ 子どもが主体となるような授業づくり
- ・ 発問や子どものつぶやきの生かし方
- ・ 導入・展開・まとめの流れ、一体化

これを事前の観点と比較すると、教材の選定、子どもの反応やつぶやきの生かし方など教材研究や子どもの反応に対するKRといった、授業構成内容について幅広い視点で捉えていることが伺える。

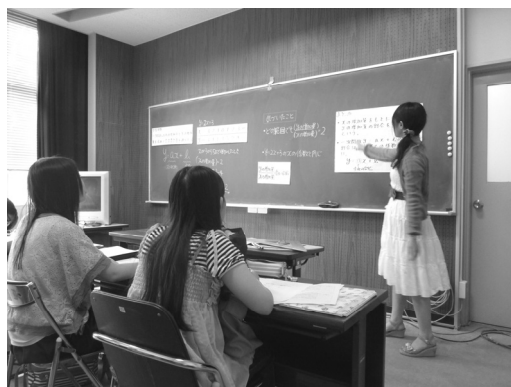
(3) 第3ステージの実際

第3ステージでは、4人の担当教員の他に、教科教育の大学教員を協力教員として依頼した。今年度は、5人の教科教育の担当者（社会、算数・数学、保健体育、図工、外国語活

動・英語)に依頼した。全体を3つのグループ(教科ごと)に分け、模擬授業を実施した。第3ステージの第1講は、教科教育の協力教員による講話を行った。教科目標や領域・内容の構成など、学習指導要領には何が書いてあるかを理解させ、教材研究・指導案作成のときにどこを読めばよいのか見通しをもたせた。

次に、指導案(略案)を作成した。初めて指導案を作成する学生も多いので、以前に参観した附属小中学校の指導案や単元の指導計画を参考にさせた。また、指導案の作成と並行して発問計画や板書計画、教材の準備も行った。学生は大学教員の指導のもとに、授業のシミュレーションを行い、授業実施にあたって不十分な部分について修正・改善を行っていた。

次に、作成した学習指導案(略案)と発問・板書計画に沿って模擬授業を実施した。一人約15分前後の模擬授業である。授業場面は学生の希望とした。他の生徒は児童・生徒役となり授業に参加した。



【模擬授業の一場面】

学生の模擬授業終了後に授業研究を行った。学校における一般の授業研究のスタイルの通り、授業者の反省を行い、他の学生から質疑を受けた。授業者は児童生徒役である学生から質問を受けることで、自分の授業の目標達成に向けた発問や板書等について再認識することになる。学生によっては、事前にシミュレーションを行い、発問や板書などスムーズにいく学生もあり、他の学生の刺激となった。最後に大学教員から指導助言を行った。また、授業の様子を

ビデオで撮影し、授業研究で活用したり、教科ごとに再度見直したりすることで、学生自身が授業を見つめ直す機会となった。

模擬授業が終了した第14回に模擬授業の取組の振り返りを行い、自分や他の学生の取組状況について省察させた。以下はその一部である。

○ 模擬授業で学ぶ点として気付いたこととその考察

- ・ 声の大きさ、抑揚、目線も大切だということを見てとても感じた。それによって授業の明るさが違うことに気付いた。
- ・ 資料を比較することで生徒の意見が出やすい。
- ・ 具体的に何をすればよいか生徒が分かっていたら授業に取り組みやすい。
- ・ 前時の振り返りをすると本時の授業の流れが整理できる。
- ・ 子ども達が発言しやすい環境が作られている。

○ 模擬授業で改善すべき点として気付いたこととその考察

- ・ 説明中心になってしまい、話し合う時間やまとめの時間がとれなかった。
- ・ 予想していない答えが返ってきて少し焦ってしまった。
- ・ 不安そうに授業してしまった。教師が不安そうでは生徒達も不安になってしまう。
- ・ 文字の大きさや色などの工夫がなかった。
- ・ ヒントの出し方を工夫すべきであった。
- ・ ゲームを考える際、子どもの実態に応じた英単語を選ばないとゲームへの関心が薄れる。

○ もう一度模擬授業を実施する場合どんな点に留意し準備するか？

- ・ 本時の授業のポイントを把握し、本時が単元の中でどういう位置付けになっているか全体から焦点を絞れるようにしたい。
- ・ 発問計画についてもっと様々な内容を考えている。今回はあまり生徒の反応を考えていなかったの、次はしっかり考えて臨みたい。

【学生が作成した算数科の指導案の一例】

第6学年 算数科 学習指導案 No. _____

日時 平成24年 7月 6日 (金) 〇校時
 対象 〇組 男子〇名 女子〇名 計〇〇名
 指導者 _____

1 単元 大分と式

2 指導計画 (全11時間)

1. 数式の順序を式に添った式(面積) 4-5-6
 2. 10以内の数の加法と減法(面積) 7. 10以内の数の加法と減法(面積)
 3. 10以内の数の加法と減法(面積) 7. 10以内の数の加法と減法(面積)

3 本時 (5/11)

(1) 目標
 ① 大分と式の問題において、大分には整数以外にどのような数があるかを考え、求めたものの式をつかって式に表し、数と対応し、式の値を算出することができる。
 ② 小数や分数の値も整数と同じように大分にあることを理解する。

(2) 展開

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な指導(コメント)
学習過程の序	1. 学習問題を整理しとめる。 ① 日に飲む牛乳の量を求める。 ② 3日おくと毎日同じ量の牛乳を飲む。3日間で2日飲んだ場合について考えさせる。	(10)	教師の具体的な指導(コメント) ① 学習問題を整理させたため、問題を工夫して読み取らせ、何日間で何回飲むのかということをし、確認させる。
展開	(1) 1日飲む牛乳として3日間で飲む牛乳の量を求める。 ② 図をつかって説明した後、自分で式を立てて、図と相対させる。 ③ 式を立てさせる。 ④ $x \times 3 = 2$ ⑤ $x \times 3 = 2$ 3日おくと毎日飲む牛乳の量を x とすると、 $x \times 3 = 2$ と求める。	10	② 図をつかって説明することで問題の内部を理解しやすくする。

第6学年 算数科 学習指導案 No. _____

日時 平成24年 7月 6日 (金) 〇校時
 対象 〇組 男子〇名 女子〇名 計〇〇名
 指導者 _____

1 単元 大分と式

2 指導計画 (全11時間)

1. 数式の順序を式に添った式(面積) 4-5-6
 2. 10以内の数の加法と減法(面積) 7. 10以内の数の加法と減法(面積)
 3. 10以内の数の加法と減法(面積) 7. 10以内の数の加法と減法(面積)

3 本時 (5/11)

(1) 目標
 ① 大分と式の問題において、大分には整数以外にどのような数があるかを考え、求めたものの式をつかって式に表し、数と対応し、式の値を算出することができる。
 ② 小数や分数の値も整数と同じように大分にあることを理解する。

(2) 展開

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な指導(コメント)
学習問題の序	2. 学習問題を整理しとめる。 ① かけ算の式から式にある数を求めるにはどうすればよいか。 ② 自分で考え、そのあとに、図で表し、式を立てさせる。 ③ 簡単な式の例をあげて説明 □ × 4 = 12 のとき □に入る数は? → 3だね。 どうやって求めた? → 割り算 (12 ÷ 4)	25	① 今までの学習したことを思い出させ、式を立てさせるように促す。
展開	かけられる数がわかる場合は、答え = かけられる数 × かけ算の式で求められる。 □ × 〇 = △ □ = △ ÷ 〇 ここで、 $x \times 3 = 2$ について考える。 ① $x \times 3 = 2$ ② $x = 2 \div 3$ 次に、4日間で10日飲む場合、1日に飲む量を x とすると、 $x \times 4 = 10$ $x = 10 \div 4$ $x = 2.5$	10	① かけられる数かける数で答えを出す。□、〇で表し、見やすく考えさせる。② $x \times 3 = 2$ について、考えさせる。③ $x = 2 \div 3$ の形で図を添えてから考えさせる。
まとめ	5. 本時の学習のまとめをする。		① 大分は分数や小数で表していることを実感させる。② 定着させることを意識して問題に取り組ませる。

4 自己診断等にみられる事前・事後の変容

本科目では「学習指導に関する自己診断(課題チェック表)」(以下、自己診断表と記す。添付資料)により、オリエンテーション時及び最終講義時(7/27)に自己診断調査し、その変容について分析した。

(1) 各診断項目の度数の変容について

講義の第1回と15回に自己診断表による自己評価を実施した。その結果は次の表の通りである。度数平均が最も大きく変容した項目は、A2「単元の目標・指導内容」の+1.31で、次にA1「教科の目標・指導内容」の+1.29であった。また、B1「教材の分析」が1.08、B4「指導過程の構想」が1.05、C6「授業の評価と改善」も1.04上昇した。これらのことから、授業を単元全体の中で捉えることの必要性など、授業に関する「カリキュラム理解」や、教材分析・指導過程の構想などの「授業デザイン力」等がある程度高まったことが伺える。

一方、C1「説明・発問」やB6「定着の工夫」については大きな変容がなかったことから発問・板書等の指導技術の基礎・基本を学ぶ場の確保や子どもの実態を踏まえた指導の工夫が課題としてあげられる。

		項目	第1回	第15回	差
カリキュラム理解	A1	教科の目標・指導内容	1.62	2.90	1.29
	A2	単元の目標や指導内容	1.50	2.81	1.31
授業デザイン力	B1	教材の分析	1.92	3.00	1.08
	B2	単元の指導計画	1.92	2.71	0.79
	B3	目標の設定	2.00	2.77	0.77
	B4	指導過程の構想	2.08	3.13	1.05
	B5	分かる授業の工夫	2.08	2.65	0.57
	B6	定着の工夫	2.23	2.55	0.32
	B7	特別支援教育の視点	1.88	2.81	0.92
授業展開力	C1	説明・発問	2.42	2.71	0.29
	C2	板書	2.08	2.81	0.73
	C3	KR	2.35	2.74	0.40
	C4	機器・教具等の活用	1.88	2.48	0.60
	C5	評価規準の設定・活用	2.04	2.45	0.41
	C6	授業の評価と改善	1.92	2.97	1.04

(2) 授業アンケートから

15回の講義で、「これまでの講義で役にたったと思うこと」を3点記述させた。

その結果の一部は次の表の通りである。

	内 容	度数
1	模擬授業の実施	23
2	指導案作成	18
3	公開授業（附小中）への参加	16
4	模擬授業の振り返り	5
5	他の学生の模擬授業参観	5
6	4回までのレクチャー	5
7	グループ協議	5
8	教師として自分に足りないものの気付き	3
9	授業構想の立て方	3
10	授業づくりの難しさ	3

指導案作成と模擬授業の実施は、本科目の中心的な取組であるので、ほとんどの学生が役に立った項目としてあげている。また、先輩の授業参観（附属小・中）も目標とする授業をつかむ上で参考になったようである。さらに、学生は模擬授業後の授業研究における授業者の振り返りや他学生の意見、担当教師の指導等も自分に不足しているものとしての参考になったようである。また、授業づくりの難しさに言及している学生も複数いる。学生の記述を見ると、ただ、難しいと感じただけでなく、授業づくりの楽しさ、やりがい等も感得している様子が伺える。

(3) 学生のMoodle評価から

授業終了後、学生に本講義の授業評価を実施した。下の表はその結果の一部である。

質問項目	4	3	2	1
1 知識を広げ、自己を高めることができたか？	18	6	0	0
2 学習目標を達成できたか？	17	15	2	0
3 授業は学習意欲を起こさせるものであったか？	18	5	1	0
4 集中して授業に取り組めたか？	15	9	0	0
5 授業に関する内容を自主的に学習したか？	11	10	3	0

6 教員のアドバイス・サポートは適切であったか？	15	9	0	0
7 授業の内容は全般的に見て満足できるものであったか？	17	7	0	0

4：強くそう思う，3：そう思う
2：あまりそう思わない，1：そう思わない

結果を見ると、概ね学生は肯定的な見方をしているようである。しかし、2の学習目標の達成については、2人が「あまりそう思わない」と回答しており、学生の実態に応じたシラバスの改善が必要である。また、指導案作成にはどうしても時間がかかり、講義の時間だけでは不足する。オフィスタイムの活用や自宅学習についての具体的な指導が必要であると考ええる。

5 おわりに

最終講義における学生の授業感想を一部紹介したい。

- ・ 将来本当に教師になれるか不安であったが、指導案づくりや模擬授業ができるとは思わなかった。今回の授業で自分に不足している部分がよく分かった。
- ・ 実習前に指導案の書き方や授業の組み立て方など学べてためになった。
- ・ この授業を受講して教師になりたいという思いが強くなった。
- ・ 授業を作り、行うということがどんなに大変で時間がかかるかが分かった。実習に向けて良い経験ができた。
- ・ 学習内容は少し難しいものであったが、指導案作成や授業の構成について学び、これからの自分の課題を早めに知ることができた。
- ・ 指導案の書き方等を一度経験しておくことで大きな達成感と自信を感じることができた。
- ・ この講義を受けて、これからの将来について真剣に考えられるようになった。今以上に教職に就きたいと思った。
- ・ 授業参観から始まり、実際に指導案を書き模擬授業をするという流れが、教育学部

に来たかった理由を凝縮したような内容であった。

- ・ 授業を作ることはこんなにも大変なのだと思います。指導案を作ることも生徒を目の前にして授業を進めることも様々なことを考えながら行わなければならないことを知ることができた。

「教職実践研究Ⅰ」は今年度で5年目の取組となる。これまでも様々な改善を加え、「授業実践の向上」を目指した講義を構築してきた。今年度の成果と課題をもとに、更に授業の「実践的指導力」の育成を図る本科目を改善・充実させていきたい。

[参考文献]

- 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 第19巻
鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 第20巻

学習指導に関する自己診断 (課題チェック表)

※ 4 : 該当する 3 : どちらかという該当する 2 : どちらかという該当しない 1 : 該当しない

A 各教科等のカリキュラムに関する理解

番号を○で囲む

1	学習指導要に記載されている当該教科及び当該学年・分野等の目標や指導内容の全体像について、基本的な理解ができている。(教科の目標や指導内容)	A1	4	3	2	1
2	学習指導要領や年間指導計画をもとに、当該単元の目標や指導内容及び前後の単元との関連について、理解できている。(単元の目標や指導内容)	A2	4	3	2	1

B 教材分析力及び授業デザイン力

1	教科書や関連資料などを分析して、授業で扱う内容の教育的価値や目標を明確にするとともに、指導すべき基礎的・基本的な内容を明確にすることができる。(教材の分析)	B1	4	3	2	1
2	目標に即して、単元における各主題や指導課程の設定、時間配分等を行うことができる。(単元の指導計画)	B2	4	3	2	1
3	単元の指導計画に基づきながら、子どもの実態や意識を踏まえて、本時の目標を適切に設定することができる。(目標の設定)	B3	4	3	2	1
4	導入・展開・終末の基本的な指導過程を踏まえて、一単位時間の指導の流れを構想することができる。(指導過程の構想)	B4	4	3	2	1
5	子どもの実態や定着の状況を踏まえて、学習形態を工夫したり、具体物の提示や実験を工夫したりするなど、分かりやすい指導を工夫することができる。(分かる授業の工夫)	B5	4	3	2	1
6	大事なことがらを繰り返し指導したり、応用・活用する学習場面を設定したりするなど、基礎的・基本的なことがらを定着させる指導を工夫することができる。(定着の工夫)	B6	4	3	2	1
7	個々の特性や特別な配慮を必要とする児童生徒への対応を考慮し、教材・教具を工夫したり、指導方法を工夫したりすることができる。(特別支援教育の視点)	B7	4	3	2	1

C 授業展開力及び授業評価力

1	はっきりとした話し方や声量で、子どもたちに分かりやすい説明や発問・指示をすることができる。(説明・発問)	C1	4	3	2	1
2	学習の流れに沿って構造化した板書や、子どもの反応を生かせるように計画した板書など、分かりやすく丁寧な板書ができる。(板書)	C2	4	3	2	1
3	子どもたちの発言や反応に対して、話し方やうなづき・微笑みなどの表情を工夫したりして、的確なKRを返すことができる。(KR)	C3	4	3	2	1
4	興味・関心を高めたり、分かりやすい授業を展開するために、視聴覚機器や教具などを効果的に活用することができる。(機器・教具等の活動)	C4	4	3	2	1
5	目標を達成した具体的な子どもの姿を設定しておき、計画的に評価することができる。(評価規準の設定・活用)	C5	4	3	2	1
6	学習中や学習前後の評価をもとに、その後の指導計画を修正したり、補充指導や授業の改善に役立てたりすることができる。(授業の評価と改善)	C6	4	3	2	1